

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R3 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	52.1	42.0	51.1	41.0
	(0.85)	(0.75)	(0.82)	(0.79)
R8 正答率の全国比		0.69		0.73

◎ 5 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 8 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- 国語、算数ともに県や全国の平均正答率を下回っている。「知識・技能」「思考・判断・表現」のどちらに関する問題についても低い正答率になっており、課題である。また、問題形式に関して見ると、「選択式」はある程度正答しているが、「短答式」や「記述式」では正答率がかなり低くなっている。
- 国語では特に、内容「言葉の特徴や使い方に関する事項」正答率が低い。また、条件を満たして書くことや文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめて書くことができておらず、課題である。
- 算数では特に、領域「図形」「変化と関係」の正答率が低い。資料から条件に合う数を読みとることやそう判断したわけを書くことができておらず、課題である。
- 国語は得意で授業はわかる、算数は苦手だけど授業はわかると回答しているが結果とのずれがある。
- 生活リズムが安定して基本的な生活習慣が整っており、学ぶ土台はできているが、家庭での学習時間が短い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 国語、算数ともにまずは前年度までの復習を定期的に行い、基礎的な知識や技能の確実な定着を図る。
- 問題文を読む際に、キーワード等に線を付けたり、図・表などで思考を整理したりして考えを視覚化する場を継続する。
- 複数の資料や文章から自分に必要な数値や事柄を見つける思考の場を増やし、さらに理由等を言葉や式で記述して説明する場を多く設定する。
- 個人差も見られるため、タブレット端末等の活用による個に応じた指導の充実を図る。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 家庭学習の内容を工夫し、条件やテーマを与えた日記や作文を書く活動を取り入れていく。
- 家庭学習の定着を図るとともに家庭の教育力向上を目指す。自主学習を奨励し、その目的や内容を明確にして自分の力を伸ばす学習に取り組ませる。
- タブレットドリル等を活用するなどして、前学年までの復習となる学習を家庭学習に取り入れる。
- 朝の時間や家庭での読書の継続化を図るとともに、日常の生活の中で、適切な言葉の使い方に触れるなどして、語彙力を向上させる。